



BALTRO LIGHT JACKET

Carbon Footprint Calculation Report

BALTRO LIGHT JACKET
カーボンフットプリント算定報告書

01.

CFP 算定の目的



当社は、長期ビジョン「PLAY EARTH 2030」の中で地球環境の改善に向けた環境重要課題として「グリーンデザインの推進」「脱炭素社会の実現」「循環型社会の実現」「生物多様性の保全と回復」を掲げ、中期・長期の目標設定と環境改善に向けた具体策を進めています。製品の原材料調達から廃棄まで(Cradle to Grave) のライフサイクルを通じた CO₂ 排出量であるカーボンフットプリントを算定することで、環境負荷の大きな箇所を特定し、これらの課題解決に向けた取り組みに繋げることを目的に算定を行いました。（比較主張を行おうとする調査ではございません。）CFP 算定にあたり、ISO 14067:2018 温室効果ガスー製品のカーボンフットプリント、CFP ガイドライン（経産省・環境省）を参照して自社で算定ルールを作成しております。

02.

対象製品

BALTR0 LIGHT JACKET (UNISEX)

Size : L

算定単位 : 1 着



Fabric

<表地>
表側 : ナイロン 100%

裏側 : ePE

<中わた>
ダウン 72%
レーヨン 20%
フェザー 8%

<裏地>
ナイロン 100%

対象とする構成要素

製品本体

収納袋

ブランドネーム
品質ラベル

吊札
製品包装ポリ袋等

03.

対象ライフサイクル

●原材料調達から廃棄まで (Cradle to Grave) のライフサイクル全体



原材料調達段階

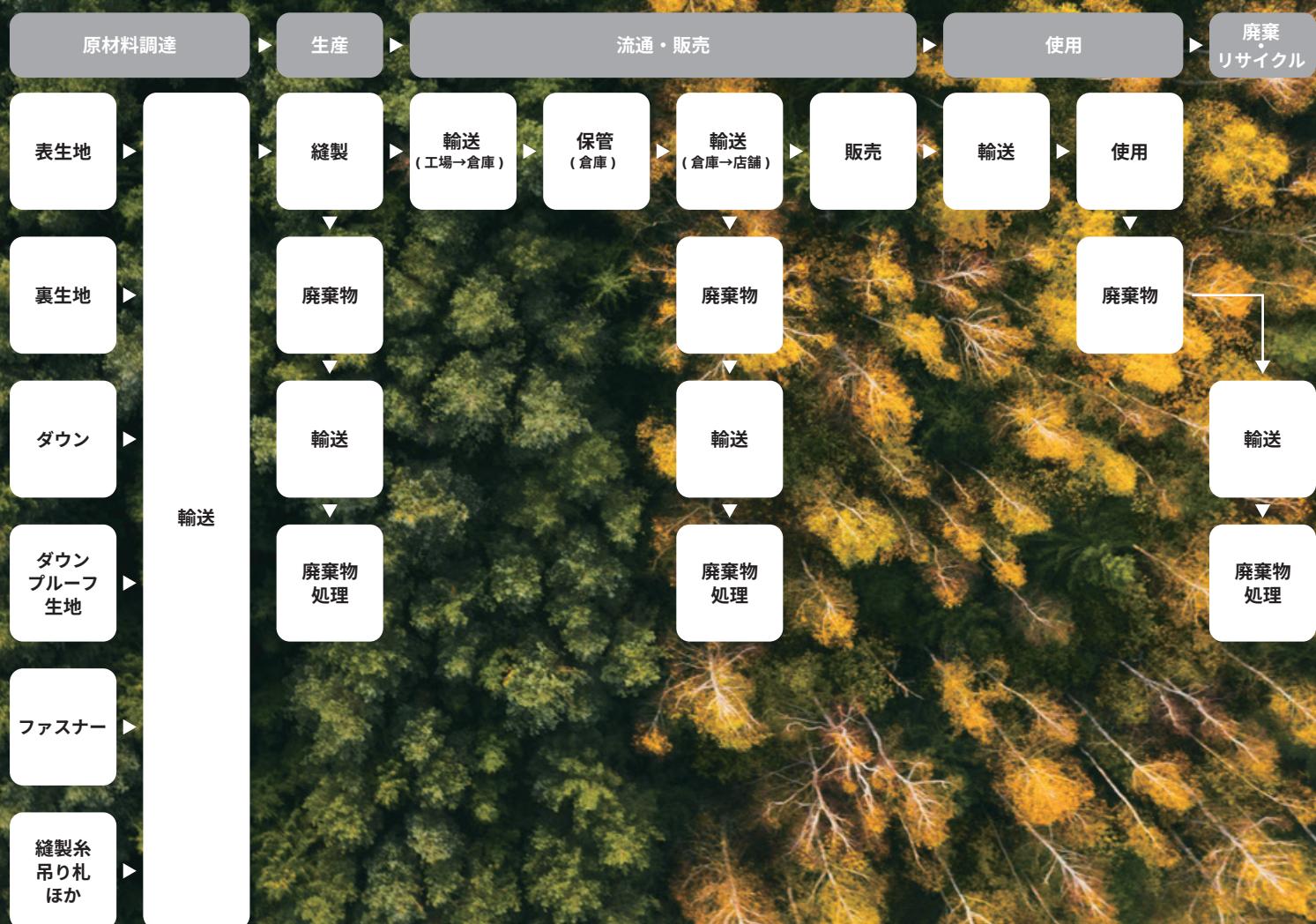
生産段階

流通段階

使用段階

廃棄・リサイクル段階

システムバウンダリー



04.

カットオフ基準

01

消耗品で、算定結果に影響が少ないと判断されるもの

- ・1つで100製品以上に使える消耗品（ミシンの針、ミシン用の潤滑油、掃除用具等）の負荷

02

梱包材・輸送資材で、算定結果に影響が少ないと判断されるもの

- ・投入物を外部から調達する際に使用される梱包資材や輸送資材およびそれらの輸送プロセス、廃棄に関わる負荷

03

活動で、妥当なシナリオのモデル化が困難なもの

- ・同拠点内の移動に係る負荷
- ・倉庫での保管プロセスに係る負荷
- ・販売段階で発生する販売に係る負担
- ・生産工場などの建設、生産設備の調達・廃棄に係る負荷
- ・事務部門や研究部門などの間接部門に係る負荷
- ・生産プロセスにおける照明や空調に係る負荷（温湿度管理が必要な場合を除く）

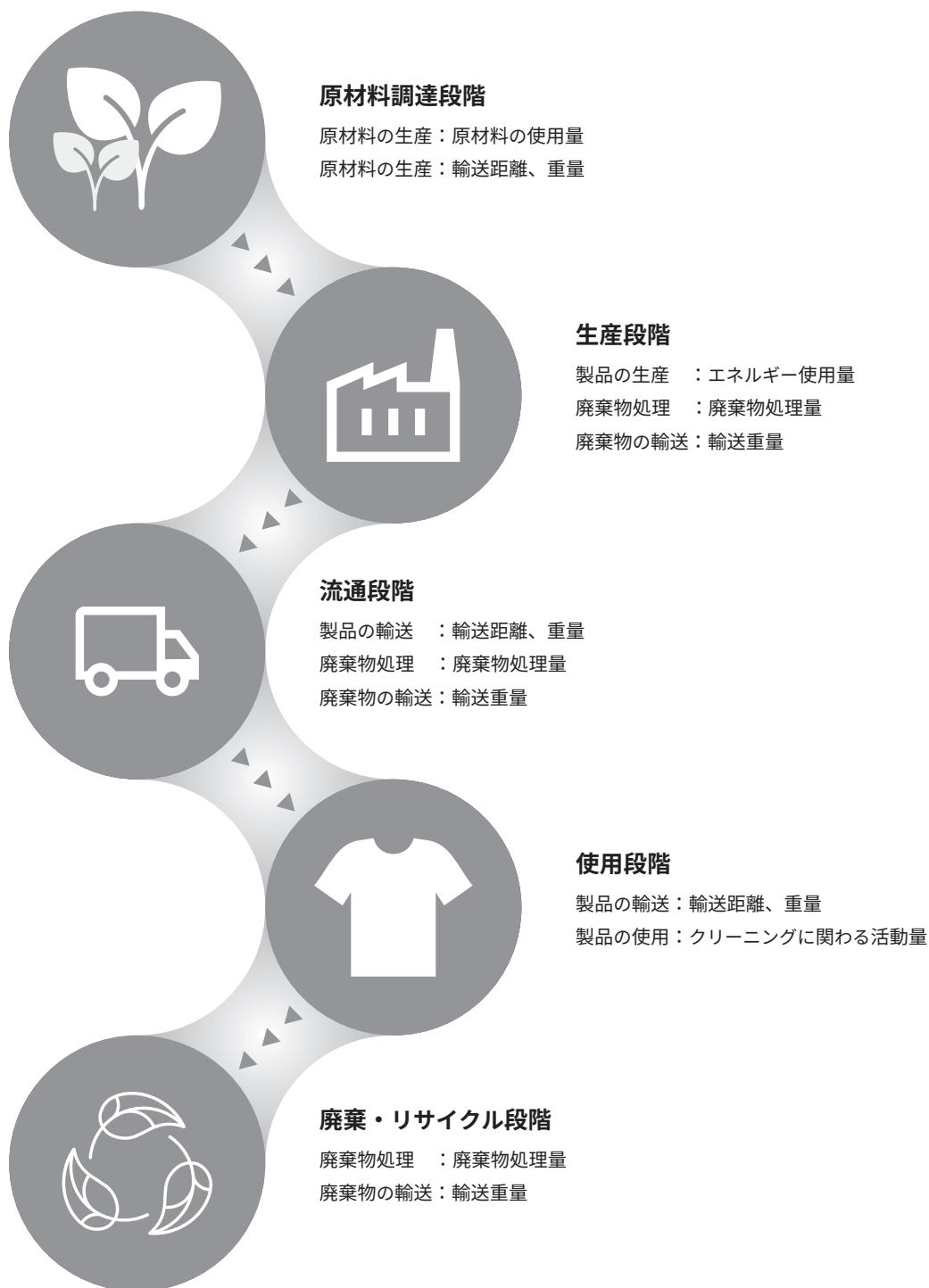
04

廃棄で、妥当なシナリオのモデル化が困難なもの

- ・生産段階で発生する、有価物として或いは無償で社外に引き取られる廃棄物に係る負担
- ・流通段階で発生する廃棄物輸送と廃棄物（個装以外の梱包）に係る負担

05.

データ情報



05.

データ情報

活動量および排出係数

01

全ての活動量に対し一次データの取得可否の確認を行い、
取得が可能なものは一次データを使用しました。

02

二次データは国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学
研究部門 AIST-IDEA Ver.3.4、環境省排出原単位データベース
v3.4 の排出係数データを使用しました。

03

活動量の取得が困難な場合は、シナリオ（輸送距離や洗濯方法・
回数など）を用いました。

04

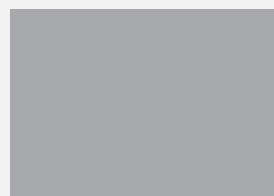
IDEA および環境省データベースの原単位データに含まれる
GHG (CO_2, CH_4 等) を考慮しております。

06.

算定結果

● 算定対象期間

2025年秋冬発売の製品に関わるものを対象としております。



MATERIALS

原材料調達

25.0kg-CO₂e

MANUFACTURING

生産

0.1kg-CO₂e

DISTRIBUTION

販売

1.4kg-CO₂e

USE

使用

1.8kg-CO₂e

END OF LIFE

廃棄

3.1kg-CO₂e

07.

算定結果を受けて

排出削減に向けた取り組み

当社は環境負荷低減に向けた取り組みの一環として、2025年秋冬モデル「バルトロライトジャケット」の表生地に再生ナイロンを使用しました。これにより、化石由来素材を使用した場合と比較して、素材から生産までのプロセスで約1.8kgのCO₂排出削減を実現しています。

算定における課題点・不確実性

カーボンフットプリント算定のスピードと正確性を両立させる観点から、原材料調達段階、輸送段階、使用段階の算定において、シナリオを設定の上で算定を行っており、実際の状況を反映していない部分がございます。使用段階においては、全国クリーニング生活衛生同業組合連合会 クリーニング事故賠償基準の平均使用年数を基に製品の使用期間を4年とし、使用シーズンが終わる毎にクリーニングを行うものとして3回ドライクリーニングを実施するものと設定しました。

今後のモニタリング・再算定の考え方

シナリオの設定による算定を行った部分は、今後取得が可能になった際は一次データを使用します。原材料調達段階での排出量が全体の約8割を占める本算定結果より、生地をはじめとする素材の排出量削減が重要取り組み課題と特定できました。今後の素材開発や切り替えなどにより排出量の少ないタイプに置き換わった際は、そちらのデータを用いて再算定を行います。